

# 月刊 JMITU ティンカ



12月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部  
セガ グループ分会 2018年発行

No.408

## 働き方改革

### テレワーク・副業推進の意図は何？

今年6月に参議院本会議で

「働き方改革関連法案」が成立しました。関連法として一括されていたのは、労働基準法、労働安全衛生法、パート労働法、労働契約法、労働者派遣法、雇用対策法などです。

来年4月以降順次施行される時間外・休日労働や年次有給休暇の在り方、正規と非正規の待遇差に関する法令など、私達の働き方に密接にかかわるルールが大きく変わります。

残業代ゼロで働かせ放題、過労死促進の高度プロフェッショナル制度も可能になります。労働時間・休憩・休日の規制をはずして、連日24時間労働させられる制度など、労基法破壊そのものです。

雇用対策法では、「多様な就業形態の普及」を盛り込んで

います。その中には、「副業やテレワーク」が含まれています。

これまで会社は労働者に対して、職務専念義務を課してきました。会社に内緒でアルバイトなどをしていることがばれると懲戒処分の対象になりました。

なぜ今になり副業を推進するのでしょうか？

この理由は、経済産業省の2017年3月の「雇用関係によらない働き方」に関する研究会報告書に「これまで、企業においては、自社の事業にかかわる業務については、自社で雇用している人材によ

る業務を遂行するのが一般的であった。急激な産業構造の転換とビジネスモデルの変化等により、そういった自前主義には限界が訪れつつあり、外部人材の積極的活用が企業にとっても重要になりつつある。」と報告されています。

ここでいう外部人材とは「個人事業主」のことで、個人事業主の場合、労働基準法、最低賃金法、労災保険、雇用保険法などの労働保護法制が適用されません。

社会保険は、国民年金、国民健康保険へ、交通費・ボーナス・退職金はなし、労災も補償されません。(ただし、企業が雇用主責任を免れる目的で、労働者を個人事業主として偽装した場合は別です。)

いまでも、労働者と異ならない働き方をしている塾や予備校の講師、タクシーや宅配

便のドライバー等、事業主の指揮下で働いているにもかかわらず、形式的に「個人事業主」とされている人々がいます。企業にとって労働者を個人事業主に転換すればかなりの経費削減になります。

テレワークについて大企業は正社員を中心に広がりつつある在宅勤務は別として、問題なのは非雇用型テレワークです。

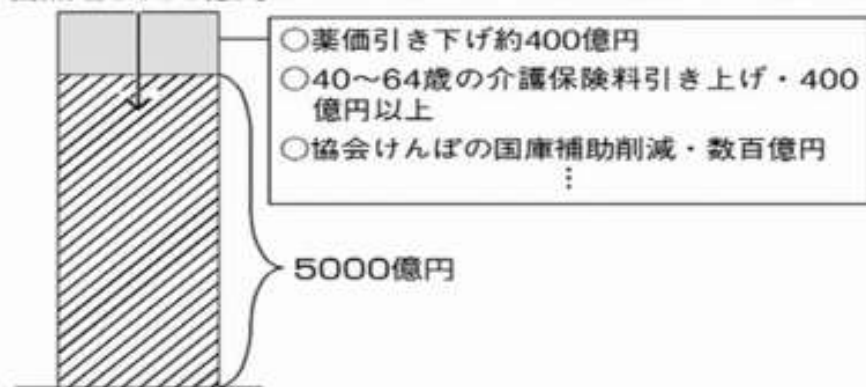
仕事内容もデータ入力のような事務職から、イラスト制作やアプリ開発などの専門業務にまで広がり、従来の内職のように家内労働法が適用されず、注文主とは請負契約です。1時間かけてイラストを描いても代金は500円ということもあり、これを規制する法律は今のところありません。労働者の為の「働き方改革」ではないのが明らかです。

# 薬価下げ 医療拡充に充てず

## 自然増1000億円超圧縮へ

### 2019年度社会保障費「自然増」分の削減見通し

自然増6000億円



安倍政権が2019年度予算案で、高齢化などに伴う社会保障費の「自然増」分を5千億円未満に抑える詰の調整を進めています。

19年度に見込んでいる6千億円の伸びを1千億円超も削り込むもので、16〜18年度に毎年5千億まで圧縮してきた従来目標を超える削減となります。

社会保障費の自然増分は、医療・介護など現行制度を維持するのに必要な予算です。

にもかかわらず安倍政権は12年末の政権復帰後6年連続で「自然増」削減を強行。19年度は☆薬の公定価格（薬価）

の値下げ☆一定所得以上の40〜64才が支払う介護保険料の段階的引き上げ☆中小企業の従業員が加入する「協会けんぽ」の国庫補助削減でー計1千億円程度を捻出する考えです。

財務省はさらなる削減を迫っています。

薬価については厚生労働省が5日発表した調査結果によると19年10月に狙う消費税増税と併せて行う改定で、約400億円を削減する見通しです。

医療機関は薬や医療機器の仕入れ時に支払った消費税が非課税扱いで患者に転嫁できない為、国が薬価を含む診療報酬に増税分を上乗せします。

薬価は市場価格との差も是正するため、差し引き値下げになる形です。

この値下げ分は医療機関が経営努力で生み出すもので、地域医療体制の立て直しにこそあべきなのに「自然増」削減を優先させるかたちです。

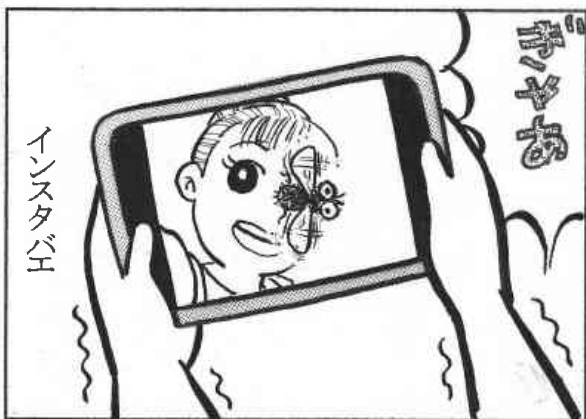
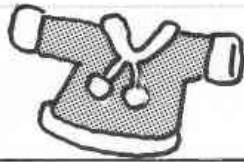
そもそも、診療報酬全体を14・16、18年度の3回連続で実質引き下げたことや、14年度の消費税増税（5→8%）に伴う診療報酬の補填不足（特定機能病院は1施設当たり年9千万円も不足）が多くの医療機関の経営に打撃を与えています。

10%への消費税増税はきっぱり中止したうえで、診療報酬を20年度改定で抜本的引き上げるなど社会保障の拡充こそが求められています。

# 4こ末漫画

川崎よしき





シヨートシヨート

## 暮れ芝居

仙洞田一彦

敗戦後すぐの伯爵家のクリスマス、どちらかといえばドタバタから芝居は始まった。

爺さんは客席にいて、俺が生まれたころの日本の話だなど思いながら見ていた。

敗戦で占領軍が実権を握り、伯爵などという肩書は地に落ちた。一銭の価値もなくなつたのだ。

敗戦直後の日本など、生まれたばかりだった爺さんの記憶にあるわけがない。七十数年の記憶の蓄積から推し量るしかない。ましてや伯爵家など、日本にそういうものがあったんだくらいの感覚だ。敗戦後のどさくさというが、伯

爵家に現れる登場人物も、伯爵家の人物とともに米兵やどこの馬の骨か分からないようなごろつきも出て来る。同じ国にいても縁のない世界を描いているが、人物の絡みが面白い。眠る暇などない。

隣の席の婆さんは――隣の席が婆さんだと気づいたのは、舞台がちよつと一息ついたとき、右隣を見たら婆さんがいた。よく眠っていた。顔をそつと見たら、どこかでよく見た婆さんのような気がした。だが、思い出せない。

この劇場の観客席の床は平らで、舞台から離れるにしたがつて高くなるような傾斜がついていない。日本橋のデパートにあるこの劇場は古い。どこかで読んだが、敗戦後東京に残っていた劇場はここだ

けだったらしい。記憶に自信

のなくなった爺さんの記憶だからあてにはならない。でも、古い記憶は大丈夫だ。婆さんは背もたれから、頭がちよつと上に出るくらいの身長しかない。だから役者の動きに従

って、頭を右に倒したり、左に倒したりしながら見なければならぬ。隣の婆さんは首が疲れて眠ってしまったのかと思つた。それにしても高い入場料を払って眠るのはもつたいない。婆さんは時々、爺さんの方に体を傾けるが、爺さんの方にあたるほどではない。

急に冷え込んだ東京。寒い中を丸くなるほど着込んで、一時間も電車に揺られてやってきた。この婆さんもそうだろう。かわいそうに、ぐっす

り眠っている。

腐っても鯛、伯爵の肩書を利用して一儲け企もうとして屋敷に乗り込む連中がいる。契約書に署名してハンコを捺せという場面。爺さんは高齢者を狙つた詐欺を連想した。

つい最近、身近に起こつたような気もする。いつ、どんな時代も詐欺師はたくましく生きていく。親から聞いたことだが、この時代は焼け野原、食うものもない時代だった。

自分の口にはいるものを確保するだけでも大変だったが、詐欺師は目先のことを考えずに、今はどんな時代かを深く考えて一儲けしようとするのだからすごい。どんな苦しい時代にも、決して落ち込むことはなく、儲けようというのだからすごい。戦後はどさ



くさ、今は高齢化社会、その時代に合わせて生き抜く力は教訓にしたいものだ。

爺さんがそんなことを考えた時、客席が明るくなり休憩になった。

自分もそういうことはあるが、隣の婆さんも休憩になって目が覚めたようだ。まるで休憩時間のために、入場料を払い劇場に足を運んでいるかのような。つまらない芝居で眠くなるのは仕方がないが、それならそれで休憩時間も眠っていいのだが、何故か休憩時間に目が覚める。これは学校にいたときについた習慣かも知れない。授業中は眠っているが、休み時間に目が覚めて急に元気になるのと似ているというか、それが身に付いたのかも知れない。

爺さんはトイレに行った。

トイレから帰って来ると、隣の婆さんが、何が入っているのか分からないが客席に座ったまま、丸く膨らんだ手提げ袋の中を手で探っていた。客席が明るくなるとはいつても、新しい劇場と違ってここは薄暗い。婆さんも視力が落ちてきているのだろう、袋の中を覗きこんでいる。すると袋の中から小さい袋を出した。その袋からしわくちゃな手で取り出したのは銀行の通帳だった。四つくらいある。通帳を開いては見なかったが、通帳の数を確認したようだ。あんまりじろじろ見ると疑われそうだから、婆さんから視線を離して、ちょこちょこっと、それとなく見た。

爺さんの頭をよぎったこと

があった。最近通帳から金を引き出し、誰かに渡したような気がしたのだが、どうもそれから先が思い出せない。それにしても劇場に通帳を、一つや二つでなく四つも持つてくるのはおかしい。家に置いておけない事情があるのだろう。誰かが勝手に通帳から金を引き出すのかも知れない。気の毒に。爺さんは同情した。

芝居の後半が始まった。伯爵がごろつきの詐欺師に脅されて窮地に立つ。しかし、戦後も五年経つと、何故か伯爵は力を盛り返す。詐欺師など、逆にひとひねり。

爺さんは感動した。上には上がいるものだ。土から上は枯れても、根っこはしっかり残っているのだ。瞬く間に木は育ち枝葉を茂らせる。占領

軍によって根まで枯れてしまいうようになるが、占領軍のなかには枯れさせまいとする人たちもいた。それによって伯爵は甦る。ま、考えてみれば戦前の支配体制に戻ったのか――。爺さんは、ぼうっとした頭で考えていた。

隣の婆さんは、後半は眠らなかつたようだ。眠らなかつたが、爺さんの方を時折ちらつと見ていた。爺さんは、俺は通帳なんか盗らない。疑うんだったら見せるな、と内心で反発していた。

芝居の幕が下りた。すると隣の婆さんが、俺をにらんで、命令するように言った。

「帰るよ」

隣の席の婆さんと一緒に暮らしていたことを、爺さんは思い出した。

やはりひどい人事制度

12月5日、会社（SLS）から組合に対し抗議がありました。

会社からの抗議は、デイスカ11月号に掲載した人事評価のことで、「昇格の順番がまわってくるので待っていてくださいと書いてあるが、事実無根なので抗議します。嘘は書かないでください。」と言われました。

私たち組合は、以前会社が団体交渉で発言したことを説明すると、「もしも言ったのであれば、訂正してお詫びします。」と謝罪がありました。

さらに、会社から順番について、昇格に順番があると言ったのではなく、昇格に枠があり、その中で順番がある。

全員が上げられるわけではないと説明してきました。

やはり昇格には順番があり、さらに枠まであると言い出しました。昇格に枠があるなど制度のどこに書いてあるのでしょうか。

今回、会社の説明通りならば、昇格するには資格ごとの昇格条件をクリアし、役員（上司）から推薦され、昇格枠に入り、さらに順番が回ってきて昇格試験が受けられ、合格してやっと昇格ができることになります。

制度導入時には、良い制度なので頑張れば上がれますと言っていました。今では上司と目標面談しても、「この目標では評価できません」と言われて評価されず、さらに昇格も枠があり、順番もあるの

で難しいです。どこが良い制度なのでしょうか。

以前、SHD、SICの団体交渉で、今の人事制度の評価方法について、目標設定、目標に対する上司との面談、評価フィードバックと長い時間をかけているが、生産性が悪いのではと尋ねると、「生産性は悪いです。」と言っていました。SLSでは、「制度は良い制度ですが、現場の運用方法が悪い」と言っていました。

悪い運用のなかで私たちは評価をされていることになりません。生産性が悪い、運用方法が悪いのであればなぜ改善しないのか。

私たち組合は、この人事制度について、引き続き19春闘でも追求していきたいと思っています。

労働相談、ご意見、ご質問は、下記にお寄せください。

JMITU 本部 TEL 03-5961-5601 : FAX 03-5961-5603

ホームページ <http://www.jmiu.com/>

JMITU 大田地域支部 TEL 03-3734-3502 : FAX 03-3734-3534

ホームページ <http://www6.plala.or.jp/JMIUOOTA/>

セガグループ分会ホームページ <http://jmitusega.chips.jp/>